

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373500145		
法人名	社会福祉法人 知多学園		
事業所名	前山ホームらく楽 (東)		
所在地	愛知県常滑市金山字前田129		
自己評価作成日	平成29年9月29日	評価結果市町村受理日	平成30年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2373500145-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成29年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町内会に加入し、地域の盆踊りや防災訓練など打ち合わせから参加し地域の方々と日頃から交流を深めている。大きな行事である敬老会や忘年会の他に、運営推進会議後にすいか割りや餅つき大会などを行うことで地域の方に施設側の行事にも参加していただければ利用者様と関わる機会もある。また、隣の畑の方が施設の花壇に野菜の苗を植えて下さったり育て方の指導をして下さる。

日常生活では、食事に関してきざみやミキサー、とろみなど個々に合わせ用意している。。栄養を考慮しつつ本人の身体状況、希望や嗜好に合わせて個別でフルーツやプリン、アイスなど召し上がっていただくなど柔軟に対応して

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

こがね色に輝く稲穂に囲まれた農面の一角に、オレンジ色の屋根とクリーム色の壁のグループホーム「前山ホームらく楽」が建っている。当地に移転して9年を経過する中で、職員間で話し合い理念の見直しを行った。「ひとり一人を大切に力を引き出すお手伝いをします」とし、入居者の個性を大切に、共にかかわりあいながら自立支援に向けたケアに努めている。地域とは散歩など日々の生活や行事を通じて交流を重ねるとともに、町内会に加入し、地域行事にも携わりながら協力関係を深め、地域に溶け込んだ暮らしをしている。運営推進会議では、事業所の状況報告等と共に参加者に役立つテーマ決め勉強会を行ったり、すいか割りや餅つき大会などの行事を組み合わせ、参加者を増やし活気ある運営推進会議開催に努めている。また、管理者は常滑市内の企業や郵便局等に「認知症サポーター養成講座」の講師として招かれ、認知症の啓蒙に努めている。明るくゆったりとした居間で入居者は、テレビを見たり、職員と会話を楽しんだりしながらゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・地域行事に積極的に参加し、地域の方々へ施設の理解を深めている。 ・一人ひとりの思いを大切に考え自立支援に努めている。	職員間で話し合い、見直しをした理念は、玄関や事務室など皆が見やすいところに掲示している。理念は、その人の個性を大切に、個別ケアによる自立支援に努める内容となっている。この理念を基に年間の目標を決め、朝夕の会で確認しながら実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内活動や盆踊りなどの行事に参加し地域との交流ができています。 ・行事当日に参加するだけでなく、行事の打ち合わせ会議にも積極的に参加している。	町内会に加入し、職員も町内会役員として運営に携わっている。入居者も盆踊りや清掃活動などに積極的に参加したり、日々の散歩などで気軽に声を掛け合って地域との交流を深めている。敬老会や忘年会に地域の方を招き交流をしたり、地域ボランティアによる音楽レクレーションやカラオケの機会もある。中・高生の職場体験を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・施設で行われる行事に、区長や民生委員などの地域の方に参加していただき現状を見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一度行い活動報告をしている。 ・認知症サポーター養成講座の講師として地域の人に教えている。	入居者家族や区長、民生委員、包括支援センター、行政、法人職員等の参加を得て2か月毎に運営推進会議を開催している。事業所の現状や行事報告をし、意見やアドバイスを心得、運営やサービス向上に活かしている。テーマを決めて勉強会を行ったりスイカ割りや餅つきなどの行事を組み込んで参加者を募る工夫がされている。企業や老人会から研修の依頼をうけ講師として認知症の啓蒙に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう努めている。	・会議に出席していただき、理解や協力関係を築けるようにしている。	認定調査や申請代行等で市役所を訪れ情報交換をしている。また市職員が運営推進会議に参加することで事業所の実情を理解してもらいアドバイスを受けている。市主催の研修会に積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・全ての職員が拘束しないように努力していると思う。 ・玄関は施錠されていないが、通じるドアは施錠されている。	法人全体や内部研修で身体拘束についての理解を深めている。ベッド柵などは必要に応じて家族の同意を得て行っている。スピーチロック等については実践の場で職員同士で声を掛けあい、気持ちよく修正出来る環境作りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修に参加し、防止に努めている。 ・職員同士コミュニケーションをとりお互い注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度を学ぶ機会はあるが個々の必要性を話し合うまで至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所申し込みの時点から家族から悩みや不安、疑問点を尋ね、契約に至った時点で更に十分に話し合いを行い納得していただいた上で入所していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時やケアプランの更新時など家族の意見を取り入れ何でも話していただける関係作りに努めている。	入居者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、都度業務日誌等に記録し職員全体で検討している。面会時や行事で家族に積極的に話しかけ意見や要望を聞きミーティングで協議し運営に反映させている。月に1回入居者個々の様子をまとめ家族に発信している。	家族からはなんでも話していただける関係作りに努めているが、意見箱の設置も必要と考える。家族の意見を取り入れやすくなるような取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・定期的な面談があり、意見提案を発言できる場はある。	朝・夕礼の申し送りや月1回のカンファレンスなどで意見や提案を出せる機会を作っている。また日常業務においての会話等でも意見を引き出し運営に反映している。年2回の人事考課は意見や要望、悩みなどをじっくり聞く機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・より働きやすいよう福利厚生の実施に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・非常勤にも研修があると思う。 ・面接などで要望を聞き、希望する外部評価に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・勉強会やクラブ活動を通じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所の際、不安や困っている事を聞き出せるようしっかり時間を作り安心されるまで付き添い見守るようにしている。 ・家族やケアマネからの情報を元に利用者に声をかけ話しやすい関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・来所時、なるべく家族と会話するよう努めている。 ・情報を把握し面会にみえた際は挨拶をや笑顔で心掛け声をかけてもらいやすい姿勢をこころがけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・申し込みの段階で、本人家族の実情を伺い当ホームが今の時点で本人に適しているか、そうでなければ何のサービスが必要なのかという内容まで話し合いができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・得意な事、好きな事を把握し一緒に家事や作業を行えるよう努めている。 ・時に一緒に新聞広告を見たりテレビを観たり主婦の会話に参加することもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族通信や面会時に様子を伝え、家族と共に利用者を支えていく関係を気付いている。 ・家族と一緒に考え意見をいただきよりよい方へ向かうよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・一部の利用者は関係の継続ができています。 ・墓参りや行きつけの店へ行き、顔なじみの人と会話できるよう支援しています。	馴染みの美容院や墓参りなどに通えるよう、家族の協力を得ながら支援をしている。施設内の犬と散歩するときは顔なじみの人とゆっくり会話を楽しめるように時間を取っている。近所の畑の収穫に招かれるなど新しい馴染みの関係も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が間に入りコミュニケーションがとれるように努め孤立しないように努力ができています。 ・状況に応じて居室の変更やリビングの席替えなどを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所した利用者家族がボランティアに来て下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・毎日利用者として接している中で都度希望や意向を聞き入れるよう努めている。その場で解決しない場合は他の職員に相談しなるべく実現できるよう努めている。	日々のケアの中で出された入居者の希望や意見は職員間で話し合い実現できるよう努めている。また、会話や意思表示が困難な方は表情やしぐさで思いをくみ取ったり、家族から聞き取りを行いひとり一人の気持ちを大切に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時、本人や家族との会話から把握に努めている。 ・フェイスシートなどで生活歴などの情報を収集しなるべく今までの生活が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の関わりの中で利用者の変化を見逃さないようにしている。 ・職員間で日々の様子や状態を把握できるように記録など活用し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ミーティング時に職員の意見を聞いて介護計画を立てるようにしている。 ・毎月のミーティングで課題を話し合いその時々が一番良い方法を模索している。	入居者や家族の意向を踏まえながら、モニタリングや記録、医師や看護師等の意見を参考にしミーティングで話し合い介護計画を作成している。モニタリングは月1回、計画の見直しは半年ごとに行っている。家族には面会時に丁寧に説明をし同意を得ている。面会に来られない家族には介護計画を郵送し、意見や同意をもらうようにしている。状態が変化した時は随時見直しを行い、現状に即した介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個々の記録はしているが、ケアプランを反映した記録がまだ足りない。 ・体調、言動、様子など記録し変化や気づきがあった場合は申し送りで情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・病気やケガなどの対応も家族と連絡を取り病院受診、往診など本人にとって最良の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・図書館、喫茶店、スーパー、レジャー施設などを活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所前のかかりつけ医をそのまま利用している。 ・かかりつけ医と良好な関係を築き家族への連絡もしている。	本人や家族の希望を大切に、入居前の主治医を継続している。家族の協力を得ながら受診をしているが、家族が困難な場合は職員が送迎の支を援している。かかりつけ医の往診も増え、良好な医療連携が築かれるようになり、安心できる体制となっている。内科は月に1回往診があり、歯科は年に1回及び必要に応じて随時往診がある。診療にかかわる情報や薬の管理は看護師が行い、申し送り等で周知しケアに活かしている。家族への連絡も密に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・体調の変化があった場合、看護師にすぐに報告や相談をしている。 ・本人で訴える事ができない利用者もいるので体調の変化を見逃さないよう気を付けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院に直接出向いたり電話で情報交換している。 ・連携会議に毎回参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・看取りを行う場合、医師、家族と連絡をマメに取り合っているが、事前に本人と話し合う事はできていない。 ・看取りを行う時、家族が利用者といつでも会えるよう昼夜問わず来訪時間や面会時間の制限を設けていない。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明し、見取りについての希望も確認している。看取りを行う場合は早い段階から、医師や看護師、家族と密に連絡を取り、本人や家族に寄り添いながら支援をしている。職員は見取りについての勉強会を持ち、方針を共有しながらケアに努めている。看護師がリーダーシップを取りながら支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・法人や事業所内の研修に参加している。 ・定期的な訓練はしていないので行えるようにしていきたい。 ・研修に参加したり、看護師の指示も元対応しているが、もっと定期的に行い実践力を身につける必要があると思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・色々な災害を想定し定期的に避難訓練を実施している。 ・定期的に避難訓練を行っており避難方法を身につけようとしている。	年2回火災を想定した避難訓練を消防署立会いの下で行っている。地震や水害時の避難の方法を模索し訓練を実施している。市の防災訓練に職員が参加し地域との連携を図っている。1週間分の備蓄があり、福祉避難所として申請をしている。火災警報器や通報機設置場所の問題は継続課題となっている。	火災警報器や通報機が設置されている部屋は薬品の管理の為施錠されている。緊急時に即座に誰でも対応出来る方法を継続して検討することを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人生の先輩として尊敬し人格を尊重した言葉遣い、支援に努めている。 ・職員個々で気を付けてはいるが、さらに毎日その日の接遇リーダーを決め言葉遣いの確認をしている。	人生の先輩として尊敬する心を基本に持ち、一人ひとりを尊重した言葉遣いに気配りをしている。「禁句集」や言葉の言い換え表を作成し使うようにしている。接遇リーダーがその日の中心となり、夕礼時に良かったことを発表し職員間で意識づけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・言葉で思いが表出できない利用者にはうなづきや首振りで表現出来るような声かけをしている。表情や声色にも気を付けて利用者の思いをくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事の時間に食べられない人には食事の時間をずらしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・季節感や清潔感を大切にしている。 ・2ヶ月に一度美容院を利用している。 ・自分で更衣されている利用者もいるが、そうでない人は清潔に気を付けている。母の日や外出の際は化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・片付けができる利用者には一緒にしていたいでいる。 ・料理によっては本人にあわせて量や形状を変え食べやすくしている。 ・食事の形状や食器も個人に合わせて使っている。	朝夕は配食を利用し、昼食は入居者の好みや要望を取り入れキッチンで作っている。メニューは職員が立てたものを管理栄養士がチェックしている。咀嚼や嚥下能力に合わせて食物の形状を変えたり、食器の工夫をしている。個々の保有能力に合わせて、食事の準備や片付けなどを職員と一緒にやっている。お寿司を取ったり外食をする機会を作り食事を楽しめる支援をしている。	職員は食事介助や見守りをしているが、入居者と同じ食事をとっていない。検査もかねて当番制でもよいので、入居者と同じものを食べ、食感や味、食材について話題に挙げ食事の雰囲気を楽しめる工夫を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事の形状や食器も個人に合わせて使っている。 ・食事や水分摂取量が把握できるようチェック表を使用し、利用者によってはエンシュアをすすめたり飲むものを変えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、一人一人口腔ケアを見守りや必要な介助で行っている。又、口腔の状態や利用者の状態によりケアグッズも変えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄の失敗の原因を皆で話し合い失禁の回数を減らせるよう努めている。成果があった時はオムツ、パットを少しずつ減らし自立に向けたケアを心掛けている。	排泄チェックを基に、個々の排泄パターンを把握し、動作や素振りを見ながら言葉かけや誘導に努めている。失禁の原因をみんなで話し合い、個々に合った自立支援を務めることで成果を得ることができた。日中布パンツで過ごされる方もいる。便秘予防についても、運動や食べ物の工夫で、薬を使わないケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・なるべくトイレで排泄できるよう便意のサインを見逃さないようにしている。又、乳製品や食物繊維の多い食品を毎日継続して提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・その日の入浴で職員の一時的なタイミングにならないよう「今からいかがですか？」などの声をかけ利用者から了承をもらっている。 ・身体状況に合わせて入っているが、タイミングの合わない時は日にちを変更している。	基本的に週2～3回で入浴日が決まっているが、毎日の入浴希望者にはシャワーや清拭で対応している。浴槽は広くゆったりと寛いで楽しむことができ、身体状況や体調に合わせ、安全に入浴できる機械浴も整備されている。ゆず湯やしょうぶ湯など季節を楽しく取り組みもしている。入浴拒否者には言葉かけを工夫したり日時を変更するなど、個々にそった支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個人の意思で休みたい時は休めるように、意思表示の難しい方は体調や状況に応じて休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服の変更があった際は、看護師より報告を受け変更があったことでどんな作用があるかを申し送りや記録で周知できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・以前より楽しみ事は増えているが、外出の気分転換をもう少し増やしていきたい。 ・食器拭き、洗濯物たたみ、縫い物、野菜の収穫、おやつ作り等得意な事、好きな事を行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気や季節の良い時は施設周りを希望募って散歩に出掛けている。又、買い物や墓参りなど可能なかぎり行っている。	外出支援に力を入れ、天気の良い日は散歩に出かけ季節を感じたり地域の方と会話を楽しんでいる。年間行事として四季折々に、花見やいちご狩り、ぶどう狩り、初詣などに出かけている。車で喫茶店や洋服などの買い物に行くこともある。家族の協力を得ながら墓参りをしたり、誕生日には希望の場所へドライブや好きなものを食べに行くなど支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金の管理ができる方はご自身で所持しているが、それ以外はトラブルの原因にならないよう施設で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望があれば家族等にいつでも電話をかけられるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・トイレや個々の居室の表示を行い混乱しないよう配慮している。 ・季節感を感じていただけるような壁飾り(作品)の掲示や花を飾る等明るくさわやかな空間作りに努めている。	吹き抜けの高い天井は明るく開放感がある。左右対称のユニットの食堂兼居間がワンフロアになっており、お互いに出入りが自由ができる。居間や廊下の壁には行事の写真や、季節を感じる手作りの作品が飾られている。換気をこまめに行い空気の清浄に気を配ったり、湿・温度も配慮されている。明るくゆったりとした居間で入居者はテレビを見たり会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングは自由に使い、一人になりたい時は居室で過ごしていただいている。 ・テーブル席、ソファ席がありそれぞれ自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅より家具を持参されたり自分の作品や家族写真の掲示など自分好みの居室作りがされている。(カレンダーやアレンジメントした造花などの飾り)	ベットとクローゼットは備え付けとなっている。思い出のある家具やテレビ、小物を置いたり、写真や好みのポスター、自分の作品を飾って居心地の良い自分の空間を作っている。自分のホーキで部屋を掃除される方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・室内バリアフリー設計になっている。 ・床はやわらかいじゅうたんが敷いてあり廊下、トイレは手摺りを設置。浴室は個人の身体能力に合わせ個浴、特浴と使い分けしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373500145		
法人名	社会福祉法人 知多学園		
事業所名	前山ホームらく楽(西)		
所在地	愛知県常滑市金山字前田129		
自己評価作成日	平成29年9月29日	評価結果市町村受理日	平成30年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JlgvosvoCd=2373500145-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	平成29年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町内会に加入し、地域の盆踊りや防災訓練など打ち合わせから参加し地域の方々と日頃から交流を深めている。大きな行事である敬老会や忘年会の他に、運営推進会議後にすいか割りや餅つき大会などを行うことで地域の方に施設側の行事にも参加していただければ利用者様と関わる機会もある。また、隣の畑の方が施設の花壇に野菜の苗を植えて下さったり育て方の指導をして下さる。

日常生活では、食事に関してきざみやミキサー、とろみなど個々に合わせ用意している。。栄養を考慮しつつ本人の身体状況、希望や嗜好に合わせて個別でフルーツやプリン、アイスなど召し上がっていたりなど柔軟に対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

こがね色に輝く稲穂に囲まれた農面の一角に、オレンジ色の屋根とクリーム色の壁のグループホーム「前山ホームらく楽」が建っている。当地に移転して9年を経過する中で、職員間で話し合い理念の見直しを行った。「ひとり一人を大切に力を引き出すお手伝いをします」とし、入居者の個性を大切に、共にかかわりあいながら自立支援に向けたケアに努めている。地域とは散歩など日々の生活や行事を通じて交流を重ねるとともに、町内会に加入し、地域行事にも携わりながら協力関係を深め、地域に溶け込んだ暮らしをしている。運営推進会議では、事業所の状況報告等と共に参加者に役立ちテーマ決め勉強会を行ったり、スイカ割りや餅つき大会などの行事を組み合わせ、参加者を増やし活気ある運営推進会議開催に努めている。また、管理者は常滑市内の企業や郵便局等に「認知症サポーター養成講座」の講師として招かれ、認知症の啓蒙に努めている。明るくゆったりとした居間で入居者は、テレビを見たり、職員と会話を楽しんだりしながらゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・共有して実践できている。 ・この地域と密着し、いち地域住人という意識をもって地域の方々と協力、助け合いながら事業運営していくという意識をもって活動している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事などには積極的に参加できている。 ・地域活動に参加し事業所の状況を地域の方々に理解していただけるよう積極的に交流することを心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議で現状を報告している。 ・運営推進会議で勉強会等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・定期的に行っている運営推進会議の中で活動報告や質疑応答を行いそこで出た意見を全ての職員に伝えサービスの改善に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議等で実情やサービスの取り組み等を報告、相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないよう夜間も個人にあったセンサーを使用している。 ・職員間で声を掛け合い常に見守りを徹底し身体拘束なく安全に生活できるように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待に繋がることのないよう言葉遣いにも注意をはらい職員間で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度を研修会で学び、実際に利用者で制度を利用している方がみえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の締結の際は十分に家族と話し合い疑問や不安を解消した上で行っている。又改定の際は運営推進会議や文書等で十分説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議やイベント開催、面会時など家族と接する際には意見・要望等ないか聞き入れるよう努めている。 ・利用者との日々の何気ない会話の中から意見があれば記録に残し改善につながるよう職員間で意見交換している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・定期的な面談があり、意見提案を発言できる場はある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・より働きやすいよう福利厚生の充実に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・非常勤にも研修があるといいと思う。 ・面接などで要望を聞き、希望する外部評価に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・愛知県グループホーム連絡協議会に参加しており、研修会等を通じ交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・コミュニケーションを図り情報収集して安心して生活して頂けるよう関係性を大事にしている。 ・ケアプランを作る際、本人の希望、悩みなど確認しながら立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族が面会に来られた際、お話をし耳を傾けながら関係性に努めている。 ・家族の困っていることに耳を傾け不安や困り事が解消するよう最善の方法を話し合うことを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・サービスを導入する段階で必要とされる支援の優先順位を決め早急に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・できる限りのことをご自分でやっていただいている。 ・利用者を家族の一員としてとらえ、その方の力を借りながら職員、利用者それぞれ生活を支えあう関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人と家族の気持ちを知った上で本人を支えていけるよう努めている。 ・入所後も本人と家族の絆が途絶えないよう家族との外出、面会等の機会を少しでも多くとれるよう協力を求めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族の協力を得ながら馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。 ・自宅に帰ったり墓参り、生まれ育った家などにも出掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日頃の利用者の様子をしっかりと観察し、ユニットを問わず利用者同士の関係が良好に保てるような席の配置や居場所に配慮している。 ・状況を知りどなたにでも積極的に声をかける等関わり合いに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他の施設にうつった場合など家族本人だけでなく先方の施設とも情報交換を行い必要に応じ支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・しっかりとご本人の気持ちを理解しなるべく希望、要望に応えられるよう努めている。 ・日々の関わりの中で言動や行動の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・コミュニケーションを量り情報収集に努めている。 ・入所時のアセスメントや聞き取り、日常会話の中でその方の今までの暮らし方を把握し入所後も継続できる部分を見つけ実践している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個人記録や申し送り簿、日々の申し送り等で一人ひとりの状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員ミーティングであがった課題や問題点の解決策を話し合いケアプランに反映させている。又、家族の意見もプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日個人記録にその日の状況を書き情報を共有している。 ・ケアプランの実践内容に沿ったケアを行った場合、利用者の状況や反応等記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・急な外出の希望等、本人のその時の状況を把握しながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・町内行事やボランティアの訪問などで楽しむ事ができるように努めている。 ・行きつけの美容院を利用している利用者もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所前からのかかりつけ医を継続し、定期的に受診している。 ・家族に受診対応してもらったり、家族が行けない時は施設の看護師が付き添い、変化があれば医師に相談している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・利用者の状態等を申し送り、記録にも残し看護職へ報告している。必要に応じ適切に医療が受けられる体勢を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院中の様子や退院の時期などの情報を得る際、病院の連携室を通し円滑に情報交換できるようにしている。又、病院主催の会議に定期的に参加し関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時に現時点での終末期の希望を家族に聞いている。又、状態に応じ当施設でできることを説明し終末期に向けての支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・年に何回かある応急手当などの研修にこれからも参加したいと思う。 ・実践力に自信がないので身につけたいと思っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・事業所内、地域での防災訓練に参加している。 ・避難訓練では初期消火や通報など役割を分担し各職員が訓練方法を身につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・接遇委員会を中心に利用者への対応や言葉かけについて毎日評価し合うようにしている。 ・人生の先輩として敬意声掛けや対応に失礼のないよう気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者とのコミュニケーションから情報を収集したり他職員との情報交換によって希望に沿えるようにしている。 ・本人の言葉を否定しないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人一人のペースを大切にしながら支援できていると思う。 ・食事、排泄、入浴など日常行うことに関して必ず本人の希望を聞くようにし、できるだけそれに沿ったケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・入所前より好んで身につけていた物を持参していただき、更衣の際は本人の好みをたずねた上でやっている。理髪も本人の希望を聞き行きつけの美容院を利用したり髪型を決めてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者それぞれの力を活かし片付けを行っている。但し無理強いせずその時の意欲や状態に合わせて行っている。 ・季節に合わせたメニューの提供、好き嫌いを把握しなるべく好みにあった食事を出したり下膳、片付けなどできる方は行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量、水分量が一目でわかるよう都度チェック表を確認しながら必要な栄養や水分をすすめている。不足している場合は形状、内容を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、一人一人にあった方法で口腔ケアしている。 ・夜間、義歯は薬剤で洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・その時々に応じてトイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。 ・訴えがなくても時間が空いている場合は声をかけ誘導するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・二日に一度のペースで朝ヨーグルトを食べるようにしている。また、起床直後に牛乳を飲んでもらうようにしている。 ・体操を行ったり水分を多めに摂っている。状況に応じて服薬対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・基本的に曜日や時間帯を決めてしまっている。できる事ならもう少し個々にあった支援ができると思う。 ・本人の状態や希望を聞いた上で入浴のスケジュールを柔軟に変更できるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・その時に合わせ自然に眠くなるまで職員と一緒に過ごし気持ちよく眠れるよう努めている。 ・エアコンで室温調整したり寝具の調整、清潔を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・誰が何の薬を飲んでいるのかももう少し理解しなければいけないと思っている。 ・わからないことがあれば看護師に聞いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・入所前の趣味や嗜好を把握した上で役割を決め行ってもらっている。又、継続して行えるようねぎらいの言葉やはげましの言葉をかけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・時間のある時は散歩やドライブ、買い物など行っている。 ・季節のフルーツ狩りやレジャー施設など計画して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・希望があれば利用者の能力に応じて本人及び家族と相談した上で自由に使えるお金を所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話したい時はいつでもやり取りができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者に尋ねながら室温、湿度を調節している。又、季節感が出るように展示物を都度利用者と作成したり季節の花を飾るなどしている。 ・施設内の設備のメンテを心掛けている。 ・フロアは毎食後掃除機をかけ清潔を心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者同士の関係に配慮しながらユニットを問わず居心地良く過ごしていただけるよう居場所の配慮をしている。 ・居室やホール出入りは自由に行き来できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所前の馴染みの物を持ち込んでいただき居心地の良い居室作りに努めている。又、寝たきりなど居室で過ごす時間が多い利用者は音楽を流したり視界に入る所に飾り付けをする工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・自分の居室が一目でわかるよう扉の色がそれぞれ決まっていたりトイレ等は大きくわかりやすい字で表示するようにしている。 ・居室がわかるようにリースをつけたり工夫している。		